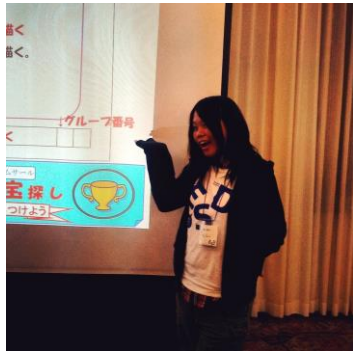


ふりがな 氏名	さとう なつこ	都道府県	神奈川県	
	佐藤 奈津子			
所属/肩書	ラムサールセンター／ボランティアスタッフ、 文教大学国際学部在学			
私の ESD活動	ラムサール条約に基づく「賢明な利用」実践の ための環境教育プログラム作成と運営補助、ファ シリテーション			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

北海道・鶴居村出身。釧路湿原を通じて生物多様性や観光などに関心を持ち、小学5年生の時にアジアの湿地周辺に住む子どもの交流プログラムに参加して以後、ラムサール条約にかかわる研究や調査・普及啓発活動を行うNGOラムサールセンターの運営する環境教育プログラム「KODOMO ラムサール」「KODOMO バイオダイバシティ」「ESD のための KODOMO ラムサール」に2006年より参加。その湿地ごとに特色あるフィールドワークなどを通じて文化や歴史、現在抱える問題について学ぶ。のべ15回以上参加し、議論のリーダーとして積極的に活動。国内外で KODOMO ラムサールに参加した子ども達のネットワークづくりを行う。2008年には韓国・昌原で開催された第十回ラムサール条約締約国会議の開会式で子ども達の積極的な貢献をアピールし世界に向けて発信した。大学入学以後、ESD の体験者として国際学や教育学を学びながらラムサールセンターボランティアスタッフとして日本全国で開催された「ESD のための KODOMO ラムサール」の企画・運営にファシリテーター補助として携わっている。そのほかにもラムサールセンターの CEPA(Communication, Education and Public Awareness)活動の一環としてエコライフフェアや学生バードソンなどの普及啓発イベントに参加している。

KODOMO ラムサールは、KODOMO バイオダイバシティ、ESD-KODOMO ラムサール活動へと発展し、湿地の「めぐみ」と「人と湿地と生きものたちの共生」を学び、全国各地の登録湿地で活動する子どもたちと議論し、その集大成をメッセージや「いきものポスター」としてまとめてきた。子どもたちはグループや全体での活発な議論を通じて湿地のめぐみである「宝物」探しに取り組む。

・ラムサールセンター：<http://homepage1.nifty.com/rcj/menu.htm>

・世界子どもラムサール COP 報告：<http://homepage1.nifty.com/rcj/japanese/kodomo/children.COP.htm>

今後のESDの発展のために、若者はどのような役割を担えますか？

文部科学省でも「グローバル人材」育成について様々な施策が試みられている中で、ユースは特に情報の主体的な選択と享受能力を鍛えることが重要である。また日本人特有の和を尊ぶ気持ちを忘れることなくコミュニケーションをとり、積極的な日本人としてのイニシアチブを発揮することが、これからユースが教育の持続可能性を高め貢献するために担うべき役割である。

ユース同士のコミュニティ形成は他国・多民族・多文化の理解の増進を図りながら世界市民意識を持てるものが望ましい。とくに KODOMO ラムサールのような環境教育プログラムをモデルとして紹介し、そこで構築されつつある子どもたちのネットワークや、教育の現場で子どもたちの主体性と意見を引き出す「ファシリテーター」の重要性などについての情報を共有したい。また各自の活動をさらに多角的なものにし、さらに下の世代に還元しながら社会的影響力の向上を若者だからこそ目指したい。